

# 文化

た。これで障害は取り除かれた。弥四郎は縁側から外に出て、厩から馬を出す大曲の姿

## 戦後県俳壇の歩みと共に

### 追悼新谷ひろし氏寄贈資料展

青森市荒川の県近代文学館は、「追悼 新谷ひろし氏寄贈資料展」を企画展示室で開いている。戦後から2020年に89歳で亡くなるまで七十数年にわたり俳壇の中心的存在だった新谷さんの俳歴と、本県俳句の歩みを、寄贈資料約200点を中心に振り返る。5月16日まで。

旧大杉村(現・青森市浪岡)出身の新谷さんは1947年、青森俳句会に入会



2020年9月に亡くなった新谷ひろしさん(撮影日不明、県近代文学館提供)

県近代文学館

福の婿が決まったとして、おれには関係のないこと。弥四郎は文箱から赤玉の扇を取り出して、作業を続けることで、心の縛りを解きほぐす。



「なせですか」「今夜、忍んで参ります」

弥四郎が言つと、福は目をます。

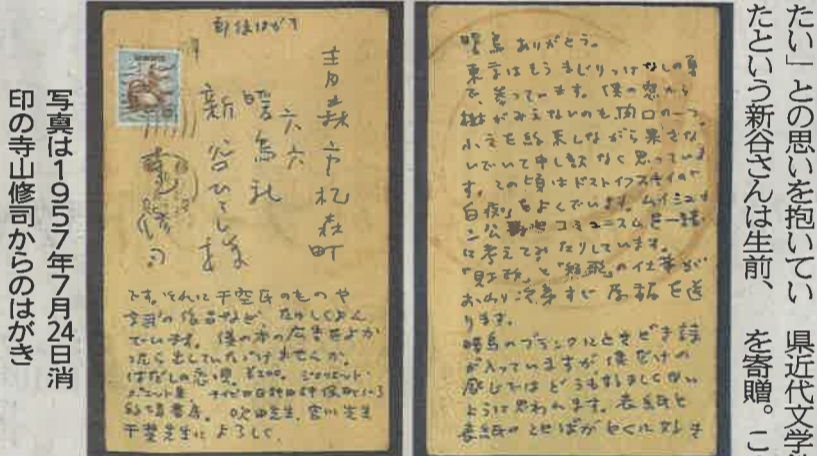
※次回は3月5日に掲載し

若木路は軒の高さの雪回廊(深浦町吾妻沢166の2)、浜草句会

◇俳誌「薫風」435号  
小野寿子「旧正月」、畑中とほる「殉難碑」、高橋千恵「雪」それぞれ8句。川口巖溪評「二人共詠 第128回」に立花夕海、戸川美重子、薫風集に前澤明子、小林とみ、石澤弘子、齋藤幸子、興村さき、菊池嘉任、小山田ふみこ、杉本喜和子、中村智美、あべいこ、高橋恵子らの名。弘子の1句。街よぎる川面にうつる冬の星

### 結社の作品

- 薫風句会 (八戸市)
  - 一 抓みの塩に七種粥あをむ 杉本喜和子
  - 初空の風車真白く威を正す 越後 則子
  - ラジオより喜びのうたお正月 三浦 成子
  - 喰積を猫と分け合ふ三日間 和田 宗三
  - 木々もみな静もる杜の淑気かな 比内 順子
  - 読初の脚注名句菜つつ 今田 恒子
  - 正座して深呼吸より筆始 大川 恵子
  - 遮断機の竿降りし間も竿に雪 田端 千鼓
  - 初東風や牛へ朝の声を掛く 鈴木志美恵
  - 左義長の火柱こころ昂らす 高橋 千恵
- 薫寿句会 (弘前市)
  - 冬天も肌荒れせしや降り止まず 寺沢すすむ
  - 一月や最果岬静かなり 小野いるま
  - 開かぬ蔵に朝のひかりや寒雀 秋谷美智子
  - 生姜湯やはすればかりの宝くじ 五十嵐かつ



写真は1957年7月24日消印の寺山修司からはがき

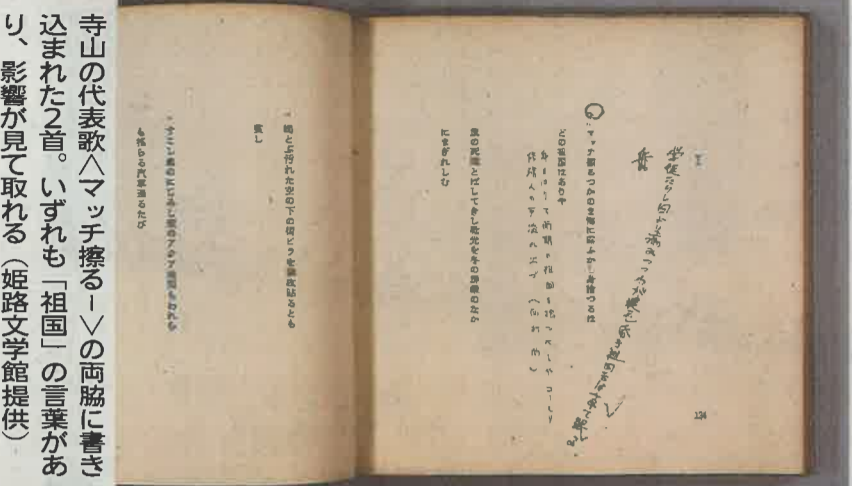
たい」との思いを抱いて、このうち、今回は自身の句集や書画、創刊号から終刊号(701号)までの「暖鳥」一式などを展示した。「暖鳥」は短詩型文芸の原点的存在。俳句を指導した千空や、俳句のライバルで親友でもあった京武久美さんの名を挙げ、「暖鳥」への思いの一端を垣間見せる。

06年の「暖鳥」終刊直後、新谷さんは俳誌「雪天」を創刊し、主宰を務めた。雪天のまほろば津軽鬼あそび。自然を愛し、人を愛し、自己を愛する俳句極楽世界を理念に掲げた「雪天」の仲間たちとの句集と、妻徳子の遺句集が展示品の最後を飾る。

同文学館の竹浪直人文学専門主幹は「新谷氏は俳句を通して交流を深めていくことに長けていた。風土を愛し、人を愛した俳人新谷氏の存在の大きさと、同氏がかわった本県俳句の奥深さを同時に感じていただければ」と話している。

開館時間は午前9時から午後5時まで。入場無料。問い合わせは県近代文学館(電話017-7399・2575)へ。

(山崎光弘)



## 寺山への憧れ 随所に

### 学生歌人・岸上大作

### 本人所有「空には本」発見



岸上大作(姫路文学館提供)

寺山修司に深く影響を受けたとされる兵庫県出身の学生歌人・岸上大作(1939~60年)が所有していた寺山の第1歌集「空には本」が見つかり、同県の姫路文学館で開催中の企画展「没後60年記念 歌人岸上大作展」で展示されている。岸上は国学院大在学中、安保闘争に身を投じ、60年12月に21歳で命を絶った。代表歌「意志表示せまり声なきこえを背にただ掌の中にマッチ擦るのみ」は、寺山の「マッチ擦るのみ」のまに海に霧かかし身捨つるほどの祖国はありやの影が色濃く出ているとされる。

姫路文学館の竹廣裕子さんは「短歌」に発表した「寺山修司論」で痛烈に批判。寺山も岸上の追悼文に厳しい言葉を並べたが、竹廣さんは「岸上という青年が寺山の心に何らかの爪痕を残したせいでは」と指摘する。

今回見つかった「空には本」は、岸上が進学で上京後、古書店で入手したもの。寺山を研究する立正大学准教授の葉名尻竜一さんが古書目録(古書店の販売リスト)で偶然発見した。

葉名尻さんによると、余白には岸上が記したとみられる寺山の住所や出身校、購入した日付や店名などがあり、「マッチ擦る」のページには、「学徒たりし日より病みつわが睫毛昏き祖国をばさみて眠る」の身をばりて雨期の祖国を捨てだ中を生きた。岸上たちの世代が、寺山の代表歌を想像力の源泉にして、時代を切り開こうとしていたことが見て取れる」と述べた。

企画展は3月21日まで。「空には本」のほか、岸上の講演依頼に答える寺山の「空には本」のほかに、岸上はがき、死の直前まで傾倒した大宰治「晩年」の一節を書き抜いた年賀状も展示している。(成田亮)